

事業名：予防接種経費

保健センター 管理係

政策	03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実								
施策	02 健康づくりの推進								
基本事業	03 母子保健の充実								
開始年度	昭和26年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
定期接種対象年齢の乳幼児・学童・生徒。	
手段（事務事業の内容、やり方）	
予防接種について対象者に周知し、委託契約を結んでいる市内医療機関にて個別に予防接種を行う。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
予防接種の必要性を理解し、ワクチンを接種することで感染、発病を防ぐとともに重症化から免れる。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	18歳以下で、定期予防接種の対象年齢である市民	人	9,979	9,880	9,562	9,562
対象指標2	昭和50年～52年生まれの市民【25年度より対象外】	人	4,420	4,446	—	—
活動指標1	麻しん、風しん2期個別通知数	人	890	956	855	859
活動指標2	ポリオ個別通知数【集団接種個別通知は24年度終了】	人	1,646	830	—	—
成果指標1	1歳6か月児健診受診児の麻しん予防接種率	%	93.7	91.2	93.2	—
成果指標2	3歳児健診受診児のポリオ接種率	%	91.8	91.5	96.8	—
事業費(A)		千円	71,246	103,533	64,980	134,302
正職員人件費(B)		千円	6,822	8,417	8,204	11,345
総事業費(A+B)		千円	78,068	111,950	73,184	145,647

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度 ・予防接種についての周知（乳幼児予防接種セットの配布、麻しん風しん混合2期対象者への個別通知など） ・ワクチン接種（市内医療機関へ委託） ・ワクチンの種類には、ヒブ、小児用肺炎球菌、不活化ポリオ、3種混合、4種混合、BCG、麻しん風しん混合、2種混合、子宮頸がん予防ワクチンがある。子宮頸がん予防ワクチンについては、平成25年6月から国の通達により積極的勧奨を差し控えている。	予防接種予診票等作成費 200千円 予防接種説明リーフレット代 100千円 ワクチン代 35,000千円 個別接種委託料 26,500千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
昭和23年の予防接種法、昭和26年の結核予防法の制定により法定予防接種事業が開始された。	
事業を取り巻く環境変化	
事業開始後、いくつもの改正があり、現行の制度となっている。近年では平成18年、麻しん、風しん接種の2回接種が導入された。また平成20年度から24年度まで麻しん風しん混合ワクチン第3期、第4期が対象者に追加された。平成24年度は生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンに移行がなされ、平成24年11月1日からは4種混合ワクチンが始まった。平成25年度から、ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防ワクチンが法定接種に加わった。江別市では、集団接種から個別接種へと体制整備し漸次移行。現在は全ての予防接種を個別接種で実施。 ※平成26年度より事務事業評価表NO.954「予防接種経費（子宮頸がん予防・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン）」を統合	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由 根拠 予防接種法により定められている義務的事業である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい <input type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由 根拠 予防接種で感染症の発症を防止又は軽症化することは、保護者及び児の心身の健康の保持増進が図られると共に、重症化による医療費の増加及び後遺症による介護負担を免れ、上位の基本事業への貢献度は大きい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由 根拠 近年新しいワクチンの導入等により接種スケジュールが複雑化している中で、周知の徹底、個の実情に応じた接種勧奨、委託医療機関における接種計画の指導により高い接種率を維持している。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 度重なる改正のため、スケジュールが複雑になりこれまでよりも乳児期に過密なスケジュールとなってきたが、周知を徹底することと、個別にあわせた保健指導を継続することで、接種率の向上が見込める。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由 根拠 本事業は、早期に接種を済ますよう啓発強化することで接種者増を図ることが成果向上になる。国の指針どおり、個別通知による接種勧奨も実施しており、これ以上の削減は法改正等の変化がない限り困難。また、接種料金について受益者負担を求めることは接種率低下を招き、事業効果を低下させると考える。